

「グローバルフェスタ JAPAN2025」オープニングセレモニー

松本外務大臣政務官 御挨拶文

おはようございます。外務大臣政務官の松本尚です。

グローバルフェスタ JAPAN 2025^{にせんじゅうご}の開催に当たり、共催者である外務省、JICA、国際協力 NGO センターの JANIC（ジャニック）を代表して御挨拶申し上げます。

ちょうど一か月ほど前、日本が1993年から主導してきているTICAD・アフリカ開発会議の第9回目の会議が横浜で開催されました。

今次会議のテーマは、AI やデジタル医療など、日本の技術や知見を活かして、アフリカが直面する様々な課題の解決策をアフリカと共に創り上げる「革新的課題解決策の共創」でした。

私も、TICADに参加し、日本の外交、国際協力の強みである「現場主義」と人材育成を強く主張し、また、アフリカの多くの国からそれに対する共感を得ました。

もはや一国だけで解決できる世界の課題はなく、世界が一丸となって取り組まなければならない課題が山積している今、こうした共に創るという「共創」の理念は、一つの大事なキーワードと言えるでしょう。

世界は、今なお続くロシアとウクライナの問題、現下の中東情勢等、地球規模で大きな対立と分断が生まれています。日本の国内でも同様の状況が出ております。

しかし、資源がなく少子化が進む日本にとって、我々の生活が世

界の情勢と直結していることを認識しなければなりません。国際協力や外交が、我々の生活に直結していることを皆様に理解していただきたい。それゆえに国際協力が極めて大切なのです。

昨年、日本が1954年に政府開発援助（ODA）を開始してから70周年を迎えました。この間、日本は、途上国の開発を含む世界の課題解決の先頭に立って協力することで、国際社会における日本の信頼を高めてきました。

私自身1年あまり、外務大臣政務官として、いろいろな国と話す機会がありましたが、最も強く感じたのは日本に対する強い信頼でした。

資源がなく人材が減っている中で、70年間で積み上げた世界から日本への信頼が資源であり財産です。こうした資源や財産をこれからも大切にし、世界に向かって活用することがこれから目指すべき国際協力の大事な柱であると考えます。

また、私は、国会議員になる前には、30年以上医師として働き、JICA 緊急国際援助隊医療チームにも登録していました。

こうした経験から、私は、日本のODAは、世界の人々と同じ目線で、共に笑い、共に泣き、共に汗を流すということが続けていかなければならないと考えます。それが我々の安心、安全な生活に繋がっていることを、もう一度強調したいと思います。

グローバルフェスタは、今回で34回目の開催となります。
今年のテーマは、「世界を変える、あなたの一步～プラス^{ワン}1の国

際協力～」です。今、国際協力に関して一部からは強い批判があると承知していますが、そのような声に負けないで我々の財産である国際協力を押し進めたいと考えます。

オープニングにお招きした「ぼる塾」さん、「ミニモちゃん」、「ODAマン」には、このあと大いに盛り上げていただきたいと思います。そのあとも、2日間にわたり、多彩なゲストが出演するプログラムが満載です。

本フェスタを通じて、共に国際協力に参加する仲間が増えていくことを強く期待いたします。

ありがとうございました。

(了)